

# 南極OB会 会報

No. 29

発行  
編集

南極 OB 会  
会長 國分 征  
広報委員会

## 今号の主な内容

- 第 57 次越冬隊からのミッドウィンターメッセージ ○第 57 次夏隊活動報告
- 2016 年度南極 OB 会総会・ミッドウィンター祭
- 南極観測 60 周年記念連携 第 20 回「南極の歴史」講話会
- 話題：「南極の話が小学校の国語の教科書に」、「オーロラ観測してみたい少年を応援」
- 南極関連情報
- 支部便り（北海道）○隊次報告（28 次）
- 会員の広場（南極 OB 会オリジナルカレンダー2017 年版、南極すごろく 他）

# MIDWINTER GREETINGS 2016

GOODBYE SUN & HELLO POLAR NIGHT



THE 57TH JAPANESE ANTARCTIC RESEARCH EXPEDITION  
WINTERING TEAM

*Wishing you the Best from SYOWA STATION*

Yuichi HASEGAWA / Yasuhiro MINAMOTO / Masato FUKUDA / So WATANABE / Hiroaki FUJIWARA / Takeshi MIZUTANI / Takeshi TOMOMATSU / Takaaki ISHIKAWA / Masashi KOMA / Sachiko NISHIYAMA / Yoshitaka TAMURA  
Yosuke SANINOHE / Masanori TAKEDA / Keiko MAKIYAMA / Junko WATANUKI / Tomoya IWATSUKI / Eri SASAMORI / Naoto FURUKI / Tatsuya OKAMOTO / Hitoshi INOMATA / Hiroaki KUBOTA / Hiroshi KATO / Sunao MAEDA  
Masamichi UMETSU / Kazuhiko MUSHIAKE / Makoto MATSUMOTO / Kazuo HIGUCHI / Hirohisa MORIKAWA / Hayato ARAKAWA / Kana KATO

## 南極 OB 会のみなさま

ミッドウィンター祭の開催、おめでとうございます！  
南極は極夜を迎え、越冬の折り返し点が近づいてきました。  
昭和基地でもミッドウィンター祭に向けて、準備が本格化しています。



一日の殆どが暗闇という慣れない環境の中、観測、設営作業、生活と一人ひとりが役割を果たし、和気あいあいと過ごしています。

今年は10年ぶりにオングル諸島周辺の海水が流され、一時三方が海に囲まれました。「南極では何が起ころうとも不思議ではない」ことを改めて実感しています。

そんな昭和基地の様子を画像\*にまとめましたので、酒の肴としてご覧いただければと思います。

みなさまの益々のご健勝を南の地よりお祈りいたします。

第57次南極地域観測隊 越冬隊長 樋口和生  
隊員一同

\*画像（動画）は、総会・ミッドウィンター祭で出席者に披露された。後日南極OB会ホームページで掲載予定。

## 第57次夏隊活動報告

第57次隊隊長兼夏隊長 門倉 昭

第57次南極地域観測隊（57次隊）の夏隊本隊は、今年3月27日に帰国し、先に帰国していた、「トロール隊」と「海鷹丸隊」の2つの別働隊も合わせて、57次夏隊としての活動を全て無事終了しました。

### 「しらせ」の行動と輸送

「しらせ」で行動した本隊は、12月2日に成田を出発、翌3日にオーストラリアのフリマントル港に停泊中の「しらせ」に乗船し、同6日に出港しました。途中海洋観測を行いながら、12月21日にはリュツォ・ホルム湾の定着氷縁に到着、1年氷帯を連続砕氷しながら進み、翌22日には、弁天島を越えて多年氷帯の手前に達しました。その位置から第一便や優先物資空輸を行い、12月25日から多年氷帯に侵入、ラミング砕氷航行を続け、1月4日に昭和基地の見晴らし沖約500mの位置に到着し、3年連続の接岸を果たしました。その後、1月4日から22日まで、大型物資の氷上輸送、燃料のパイプライン輸送、持込み物資空輸、持帰り物資空輸と順調に進み、燃料632トンを含む合計1,037トンの持ち込み物資と、合計344トンの持ち帰り物資の輸送作業を無事完遂することが出来ました。

「しらせ」は、1月30日から復路に向けた砕氷航行を開始し、2月5日には多年氷帯を離脱しました。ラミング回数は、往路



57次隊人文字

931回、復路921回、合計1,852回で、56次隊の時の約3分の1でした。

2月1日に越冬交代式が行われ、2月14日の最終便で、56次越冬隊26名と57次夏隊・同行者34名の合計60名全員が「しらせ」に移動しました。その後、2月15日には定着氷域を離脱し、途中、アムンセン湾での野外オペ（2月17日）や海洋観測などを行いながら、3月24日にオーストラリアのシドニー港に入港、26日に観測隊は「しらせ」を退艦し、空路帰路につきました。

### 夏期観測

夏期間の観測トピックとしては、1. 昭和基地の大型大気レーダー（PANSY）による国際キャンペーン観測、2. 内陸部氷床域におけるアイスコア中層掘削、3. 沿岸域における氷河・氷床変動の観測、などが挙げら





PANSY アンテナ群

れます。1では、キャンペーン期間中（1月下旬～2月上旬）に、観測対象としていた「成層圏突然昇温」現象が2回発生し、PANSY レーダーのフルスペック連続観測データを取得することが出来ました。2では、昭和基地から約90km離れた標高1,380mのH128において、深さ261mまでのアイスコア試料を取得することが出来ました。現在から遡る過去約2000年間の気候・環境変動の研究が目的です。3では、白瀬氷河、スカーレン氷河、ボークス氷河の上に、高精度GPS観測装置を設置し、氷河の変動を解析するための観測データを取得しました。

### 夏期設営作業

昭和基地で夏期行われた設営作業の主なものは、20kW風力発電装置2号機の設置作業、基本観測棟の基礎工事、第2車庫兼ヘリコプター格納庫前のスロープ工事、コンテナヤード補修工事、300kVA発電機交換、太陽光発電装置パワーコンディショナー更新、などで、天候に恵まれたこともあり、それぞれ計画通りに実施し完了することが出来ました。

### 同行者の活動

夏隊本隊への同行者として、教員（小学校と高校）2名、大学院生7名、観測隊ヘリクルー2名、報道記者1名、が参加しました。教員2名は、観測や設営作業に参加し、そこで見聞・調査したことを元に、それぞれの学校の生徒や一般向けに、「南極授業」を合計3回行いました。大学院生は、指導を担当する隊員と共に、船上観測や野外観測に参加し、現場の観測作業を学ぶと共に、今後研究を進めるための試料やデータを取得しました。



風力発電機

### その他のトピック

「しらせ」の復路、2月24日に、オーストラリアの観測船「オーロラ・オーストラリス（AA）」号がモーション基地沖で座礁するという事故が発生しました。救援要請を受け、「しらせ」はモーション基地沖に向かい、3月6日に、観測隊員66名とヘリコプター3機及び物資のピックアップを行い、3月12日に、人員全員とヘリコプター及び一部物資を無事ケーシー基地まで送り届けました。

### 別働隊の活動

トロール隊5名は、12月13日に出発し、12月20日から2月17日の間、ノルウェーのトロール基地や南アフリカのサナエ基地周辺の氷河地形・地質調査と基盤地質調査を実施し、2月22日に帰国しました。ノルウェーのチャーター機を利用することや、この方面の地学調査を行うことは、日本の観測隊として初めての試みであり、国際的な支援を受け、無事オペレーションを完遂することが出来ました。

海鷹丸隊11名は、1月10日～11日に出発し、1月15日から2月6日の間、東京海洋大学の練習船「海鷹丸」に乗船し、基本観測（海洋物理・化学観測）やモニタリング観測、一般研究観測の目的の海洋観測を実施し、2月10日に帰国しました。

### おわりに

57次夏隊の活動を計画通り実施し全員無事に帰国することが出来ました。現在57次越冬隊30名が昭和基地で越冬中です。引き続き関係者の皆様のご支援を宜しくお願い致します。

## 2016 年度南極 OB 会総会報告

2016 年 6 月 18 日（土）、南極 OB 会総会が明治大学リバティタワー（1153 教室、15 階）で開催された。開会にあたって、南極 OB 会國分征会長は、昨年の南極観測再開 50 周年記念事業に引き続き、2016 年は南極観測が始まってから 60 周年の節目に当たり、南極 OB 会は様々な記念行事や企画を計画していると挨拶があった。

続いて、会則第 11 条に沿って、出席会員の中から議長に伊村 智氏を選出、議事進行に入った。

### 1. 活動報告

神田運営委員長より 1 年間の運営委員会の組織、役割、活動の概要が報告された。続いて、柴田広報委員長より会報 23～25 号が発行され、ホームページの更新があったことが報告された。里見南極教室委員長からは 3 回の南極教室に講師を派遣したことが報告された。アーカイブ担当の野元堀委員より南極 OB 会のアーカイブズの流れが説明され、主な収集物について紹介があった。



南極 OB 会総会の様子



議長の伊村智氏



開会あいさつをする國分征南極 OB 会会長

「南極の歴史」講話会を担当している渡辺氏より、昨年度の南極観測再開 50 周年記念事業に関連して、6 月、東京で第 19 回「南極の歴史」講話会「ふじの時代」、「しらせの時代」を開催、10 月、名古屋の「ふじ」近傍で「ふじの時代」講演会、および 1 月、千葉、西船橋港に係留されている「初代しらせ」の船上で、「しらせの時代」講演会が盛況の下で、開催されたことが報告された。

その他、神田委員長より、「宗谷」、「初代しらせ」での説明員等のボランティア活動、出版・編集協力では南極 OB 会の編集で「北極読本」が出版されたことが報告された。これをもって報告事項を終了した。

### 2. 審議事項

田中会計担当委員より、2015 年度決算（収支決算）の報告（資料 1）、および大久保監事より会計監査の報告（資料 2）があった。

審議の結果、決算報告が承認された。この決算報告の承認を受けて、運営委員長より 2016 度の活動計画案が提案された。審議の結果、活動計画案が承認された。続いて、会計担当委員より、2016 年度予算（収支計画）案の報告があった（資料 3）。審議

南極OB会 2015年度収支決算(案) 2016年3月31日 (単位:千円)

| 2015年3月末繰越 |                   | 4,206           |               |       |       |
|------------|-------------------|-----------------|---------------|-------|-------|
| 収 入        |                   |                 | 支 出           |       |       |
|            | 予算                | 決算              |               | 予算    | 決算    |
| 2015年度通信費  | 2,700<br>(900人見込) | 2,894<br>(896人) | 会報発行関係費用      | 1,200 | 1,300 |
|            |                   |                 | 事務室運営費        | 1,500 | 1,495 |
|            |                   |                 | 振替入手数料        |       | 92    |
|            |                   |                 | 交通費<br>(委員会等) | 180   | 188   |
| 総会・社行会     | 700               | 557             | 総会・社行会        | 700   | 619   |
| グッズ料金      | 200               | 121             | グッズ経費         | 150   | 31    |
| カレンダー      | 1,400             | 1,528           | カレンダー経費       | 1,200 | 1,386 |
|            |                   |                 | 慶弔関係費用        | 30    | 11    |
| その他        | 0                 | 0               | 予備費           | 40    | -     |
| 小 計        | 5,000             | 5,100           | 小 計           | 5,000 | 5,122 |
|            |                   |                 | 収支            |       | ▲ 22  |
|            |                   |                 | 次年度繰越         |       | 4,184 |

資料 1

## 会 計 監 査 報 告

南極OB会会則第8条により、2015年度会計(2015年4月1日～2016年3月31日)について、2016年6月3日に監査を実施した。

金銭出納簿及び関係書類、預金口座通帳、振替口座管理状況等について点検した結果、すべて正確に管理されていることを確認したので報告します。

2016年6月3日

南極OB会

監 事 大久保 嘉明

資料 2



会計監査報告を行う大久保監事

南極OB会 2016年度収支計画(案) 2016年6月18日 (単位:千円)

| 収 入       |                 | 支 出      |       |
|-----------|-----------------|----------|-------|
| 2016年度通信費 | 2,850<br>(950人) | 会報発行関係費用 | 1,300 |
|           |                 | 事務室運営費   | 1,600 |
|           |                 | 交通費      | 200   |
| 総会・社行会    | 600             | 総会・社行会   | 600   |
| グッズ売上     | 150             | グッズ経費    | 70    |
| カレンダー売上   | 1,600           | カレンダー経費  | 1,400 |
|           |                 | 慶弔費      | 30    |
| 計         | 5,200           | 計        | 5,200 |

資料 3

の結果、予算案が承認された。これをもって審議事項を終了した。

## 3. 南極観測 60 周年記念事業

渡辺企画委員長(南極観測 60 周年記念事業委員長)より 2016 年度の南極観測 60 周年記念事業計画案について提案があった。2015 年から実施してきた南極観測再開 50 周年記念事業計画の一部は 2016 年度に入っても実施していくが、新たに南極観測 60 周年記念事業として幾つかの計画が用意されている。その主たる企画は、2017 年 1 月 22 日(日)に東京、一ツ橋の一橋講堂で公開記念講演会、展示会、祝賀会を実施することである。この講演会に先駆けて、6 月、9 月の 2 回、南極観測 60 周年記念事業連携企画として「南極の歴史」講話会を計画した。その他、記念出版事業、支部との連携事業、隊次の記録映像集積とアーカイブズ事業、記念品作成などが企画されていることが提案された。

## 4. 法人の設置について

國分会長から法人の設置について、趣旨説明があった。時代に即した自由な活動、事業を行うことにより、南極 OB 会の社会的な存在価値が高まり、貢献の場が広がる可能性が出てきている。今日、これまでに不可能であった南極 OB 会名義による、公益性を目的とした委託事業、免税募金活動、販売活動等を可能とする社会的に認められる組織が必須になってきている。そのためには南極 OB 会の組織の中の事業委員会を



中心に、一般社団法人として登録することで実現させていきたいというものであった。続いて、会計担当の田中氏より補足説明があった。会場より幾つかの質問、意見が出された。南極 OB 会の発展のための前向きの意見があり、登録を進めることになった。

以上、伊村議長の議事進行により、活動報告、審議事項の全ての審議を終え、総会は閉会となった。

(神田啓史)

## 2016 年ミッドウィンター祭

2016 年 6 月 18 日、明治大学リバティタワーの 15 階で、「南極の歴史」講話会、総会が終了してから、17 階に移動して、午後 5 時より食堂「暁」でミッドウィンター祭が開催された。都内を一望できるこの会場の使用は南極 OB 会としては初めてで、第 29 次隊で女性として初めて南極に赴いた篠田由紀(旧姓 森永)さん(明治大学教授)と第 37 次隊に参加した三枝茂氏(明治大学卒、WNI 気象文化創造センター)の尽力があったからにはほかならない。



話がはずみます



司会進行を務めた山内恭氏



宮本武昌氏

山内恭氏(38 冬・隊長、52 夏・隊長)による司会進行で祭りが始まった。最初に國分会長の挨拶に続いて、本日の講話会で講師を務めた竹内哲夫氏(東大山の会)より、来賓の挨拶があった。芳野赳夫氏(17 冬・隊長)の挨拶と乾杯音頭で歓談に入った。

東京でのミッドウィンター祭に併せて、樋口和生第 57 次越冬隊長からメッセージが入っていた。これはドローンを駆使して、今の昭和基地を撮影し、ストリートビュー通りの迫力ある動画であった。この動画を多くの人に見てもらいたいと、「南極の歴史」講話会、総会が始まる前にもことごとく流



大木淳氏

して、大いにミッドウィンター祭の雰囲気が高まっていた。

歓談後、多賀正昭氏（8,12,21 冬）、宮本武昌氏（宗谷 5,6）、大木淳氏（しらせ、オーロラ会）より挨拶があり、祭りは盛り上がった。第 57 次越冬隊から前述した動画の他にも祝電が届いており、披露された（別

項）。吉田栄夫氏（22 冬・隊長、27 夏・隊長）の挨拶で中締めとなり、祭りは閉会となった。

（神田啓史）

## 南極観測 60 周年記念連携 第 20 回「南極の歴史」講話会 （2016 年 6 月 18 日（土）14:30～15:50 明治大学リバティタワー15 階 1153 教室） 「日本南極観測の前夜」 竹内哲夫（東大山の会）

### （講演概要）

#### はじめに

本文は講演の正確な記録ではなく、講話会幹事  
がその梗概を記したものであることをお断りし  
ておきます。

私（竹内哲夫）は東大スキー山岳部 OB  
会である「東大山の会」の会員です。南極  
観測計画が始まった当初から、何かと手伝  
わされてきました。瀧沸湖、乗鞍岳、戸田  
の訓練にも参加し、戸田では日大の平山善  
吉さんや北大の佐伯富男さんなどと一緒で  
した。第 1 次観測隊では新聞辞令で観測隊  
員候補にされ、国鉄に勤めていた私に茅誠  
司先生からお誘いがありました。当時の副  
総裁から南極には鉄道が無いではないかと  
断られたという話になっていますが、実は



講師の竹内哲夫氏

個人的事情で断念しました。

東大スキー山岳部にいた頃、そこには海  
軍から復員してきた鳥居鉄也さんがよく顔

表1 日本の南極観測の始まり前夜

#### 朝日新聞

##### 昭和30年

矢田喜美雄 社会部記者「北極・南極」連載  
南極学術探検の構想  
半澤朔一郎、信夫韓一郎

##### 昭和30年7月12日

朝日と学者グループとの会合  
（茅誠司、和達清夫、永田武等、中谷宇吉郎「欠席」）  
「皆さん学者の力で日本の空に青い大きな窓を開けてくださ  
い」（信夫韓一郎）

##### 昭和30年10月

朝日新聞社に南極学術探検事務局設置  
早大グループ：藤木九三、関根吉郎（早大探検部長）、矢田  
喜美雄、藤井恒男

##### 昭和31年1月25日～2月15日

瀧沸湖総合訓練（朝日新聞主催）  
永田武一矢田喜美雄衝突事件

#### 日本学術会議（会長茅誠司）

##### 昭和30年10月

学術会議に南極特別委員会（南特委）設置  
茅誠二 日本山岳会（今西錦司 京大、今井田研二郎 東大、  
木原均 北大）に設営支援の要請

##### 昭和31年1月11日（南特委）

西堀栄三郎（京大）が観測副隊長に内定、3月12日決定

##### 昭和31年1月

瀧沸湖の異変（早大グループの撤退）

##### 昭和31年3月20日～26日乗鞍訓練

「設営は東大山の会で引き受ける事になった」  
（朝比奈菊雄、南極外史）

##### 昭和31年4月1日

学術会議南極本部事務室を文部省内に設置  
鈴木康（東大山の会）が入る

##### 南極特別委員会設営専門委員会（寒地対策、装備、犬橋他）

鳥居鉄也、村山雅美、朝比奈菊雄、清水賢二、渡辺兵力、  
木下是雄、雨宮淳三、皆川完一など（東大山の会）、  
平山善吉（日大OB）

##### 昭和31年11月8日「宗谷」出港

を出されていました。鳥居さんは理学部化学教室におられ、南極の話が出る前後、同じ理学部の永田武先生や茅先生との付き合いがあり、南極の話を聞く機会があったようです。東大の宇宙線観測所が乗鞍岳山頂に出来、その竣工式に永田先生や茅先生が参加され、鳥居さんも居られたそうです。竣工式の後、白骨温泉で打ち上げの宴会があり、そこで茅先生から当時の松村謙三文部大臣から日本が南極観測に参加することが正式に決まったと伝えられた話をされたそうですが、私たちはその一週間前にその情報を永田先生から得ていました。

日本の南極観測のきっかけは朝日の矢田喜美雄記者が「北極・南極」という連載記事の取材過程で、国際地球観測年の計画を知り、朝日新聞が南極探検隊構想をぶち上げたのがそもそもの始まりです。それからの経緯は先ほど司会者が表で示していた通りです（この間、竹内さんから説明があったが、要旨は表1に近い）。

その後、南極観測の準備は急速に進んでいきました。昭和30年の10月には朝日新聞社に南極学術探検事務局が設置され、早大の関根さん、藤木さん、矢田さんらが詰め、準備を開始しています。一方、学術会議は同年10月に南極特別委員会（南特委）を設置しました。学術会議会長の茅先生は日本山岳会に設営支援の要請をし、集まった山岳会会長経験者達（松方三郎、今西錦

司、今井田研二郎、楨有恒等）は西堀栄三郎を越冬隊長に推薦し、翌1月に南特委で決定しています。

東大山の会には当時「ヒマラヤ研究会」があり、OB達が時折、集まっていたのですが、こうした南極観測の動きに呼応し、鳥居さんの発議でこれを「南極研究会」に改称し、南極の研究を始め、バックアップ体制を取りました。西堀越冬隊長が副隊長に、「南極研究会」の意を受けて渡辺兵力さんを希望しますが、永田先生は村山雅美さんに決めます。

そうした慌ただしく準備が進む中、翌31年1月北海道濤沸湖で総合訓練（朝日新聞社主催）が行われ、それを機に矢田さん、関根さんら早大組が南極観測準備態勢からいなくなり、巷説では「濤沸湖のクーデタ」といわれているそうですが、私はその実情を知りません。3月の乗鞍岳訓練では東大山の会が大いに働きました。結果的に、「宗谷」時代の南極観測では1次隊に8名、2次隊9名など、30数人を「東大山の会」から送り出し、累計では50数人に達しました。東大山の会は都の西北の大学として早大、学習院大とは以前から友好的で、その関係は今も変わりません。「濤沸湖」で何があったのか、永田先生も、矢田記者も共に大した自信家でしたね。

（梗概作成：渡辺興亜）

## 話題 南極の話が小学校 の国語の教科書に

私の中・高校生向きに書き下ろした『国境なき大陸 南極』（富山房インターナショナル刊）の一部が、学校図書発行の小学校の教科書、『みんなで学ぶ小学校国語 6年下』に10ページにわたって掲載された。

次世代を背負う子どもたちが南極に関心を持ってくれるきっかけになれば、これほど嬉しいことはない。51次隊からは始まった教員派遣プロジェクトとあいまって、ますます教育の世界に南極の素晴らしさが広がっていくことを期待したい。（柴田鉄治）

「国境なき大陸 南極」 柴田鉄治 著

（富山房インターナショナル 2009年9月発行 225頁 本体1,400円（税別））







# オーロラ観測してみたい少年を応援

「観測隊員と児童が衛星交信」、「南極の不思議詳しく教えて」という記事が、河北新報 2016 年 5 月 28 日に掲載されました。

5 月 26 日、57 次夏隊で参加した東北大学職員菅沢弘一さんが、息子さんも通う母校の仙台市青葉区川前小学校で「南極教室」を開催しました。衛星回線を介して越冬中の隊員がクイズを交えて昭和基地やオーロラ観測・仕組み等について紹介されたようです。児童代表 6 年生の阿部結智君が「地図や本を読んで南極に興味がある。オーロラ観測してみたい」と話したことが掲載されました。

この記事を読み、23 次地球物理担当でオーロラの観測・撮影をした経験から、阿部少年を応援してみたくなり、オーロラの写真、ペンギンや氷河、後輩が撮影した海中生物の写真に説明を添えて、自宅から 20 分ほどの小学校に届けました。

届けた当日は授業中ということもあり会えませんでした。校長先生に應對していただき、後日、阿部少年からお礼の手紙が届きました。

少年の夢がさらに大きくなったように感じる内容であり、何かがあれば今後も応援

をしていきたいと感じた次第です。

手紙の内容を原文のまま紹介します。

阿部馨さんへ

手紙や資料を送って頂きありがとうございます。この手紙をもらってぼくは南極への関心が深まりました。南極での発見や生活の工夫、南極で起きる現象などたくさんの出来事が分かりやすく解説されていて、南極の事がたくさん知れました。特にぼくは「おーろら」を観察してみたいと思いました。オーロラは緑色だけではなく青や赤などいろいろな色が見れるのだと初めて知りました。オーロラの変化は新幹線ぐらいと知り、とてもきちょうなものなんだなと思いました。そのほか海底ではうにがたくさんあったり、海草、うみぐもの仲間、うみしだの仲間、しょうわざすなど南極の寒さにもたえられる生き物がたくさんいるということが分かりました。ぼくは、南極に興味をわいてきました。馨さんのおかげです。本当にありがとうございました。

阿部結(たい)智(ち) 平成 28 年 7 月 5 日

(23 次越冬 阿部馨)

## 南極関連情報

### 第 58 次隊員 60 名決定

平成 28 年 6 月 24 日（金曜日）に開催された第 148 回南極地域観測統合推進本部総会において、第 58 次南極地域観測隊員等 60 名が決定した。

なお、既に決定済みの小山内隊長、岡田副隊長を加え、第 58 次南極地域観測隊は総勢 68 名（夏隊 35 名、越冬隊 33 名）で編成される。また、夏隊同行者は 27 名（最大）で編成予定である。

以下は国立極地研究所のホームページよりの情報です。詳しい内容は同研究所ホームページをご覧ください。

渡り鳥の移動距離は体重と飛行様式で決まる ～渡り鳥 196 種のバイオリギングデー

### タの比較で判明～

国立極地研究所の渡辺佑基 准教授は、今までに計測された 196 種の渡り鳥の移動パターンを総合的に比較することにより、体重と飛行様式（羽ばたき飛行あるいは滑翔）によって渡りの距離が決まっていることを明らかにした。（国立極地研究所 2016 年 7 月 11 日）

### 昭和基地の大気中 CO<sub>2</sub>濃度が 400ppm を突破

第 57 次南極地域観測隊（隊長：門倉昭、副隊長：樋口和生）の観測により、2016 年 5 月 14 日、昭和基地の大気中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）濃度が 1984 年の観測開始以降初めて 400ppm を突破し、さらに 6 月の月平均濃度が 400.51ppm となったことが分かった。

北極・ニーオルスンでは4年前に400ppmに達しているが、今回の昭和基地におけるCO<sub>2</sub>濃度の400ppm突破は、人口の集中する北半球から離れた南極域にも確実に人間活動の影響が及んでいることを示している。(国立極地研究所 2016年7月12日)

#### 第57次観測隊の昭和基地 NOW 記事一覧

昭和基地では、インターネットを通じて様々な情報発信を行っています。以下は会報28号以降の「昭和基地 NOW」の記事の一

覧です。機会があれば、ご覧ください。

- ・大掃除 2016年8月31日
- ・積雪監視 2016年8月11日
- ・定期的にブリザードが来ています 2016年7月15日
- ・ミッドウィンターフェスティバル！ 2016年6月21～25日
- ・ミッドウィンター 2016年6月21日
- ・見晴らし岩のソリの曳き出し作業 2016年6月9日～12日

(松原廣司)

## 連載 支部便り② (北海道支部)

### 南極 OB 会北海道支部 南極観測 60 周年記念事業実施報告書

#### はじめに

第1次南極観測隊が南極で越冬に入っしたのは1957年ですから、厳密に言うと来年2017年が南極観測60周年と言うべきかも知れません。しかし、北海道から見れば、今年2016年の60年前の1956年に、南極観測は既に始まっていた。

日本隊に与えられた観測地点は、地図はおろか、斜め写真以外に情報はない未知未踏のプリンスオラフ沿岸地域でした。第1次隊の任務は、この地域の地理や気象、氷状、地質鉱物資源や生物資源など南極の自然環境情報を収集し、生き延びて日本に帰ってくることでした。

越冬隊長の西堀榮三郎さんは、このような探検活動には、故障で動かなくなることがない犬ゾリが輸送手段として不可欠と考え、南極に出発する年の1月に、極地探検に造詣が深い北海道在住の加納一郎さんや北大農学部動物学教室教授の犬飼哲夫さんに犬ゾリチームを1セット準備するよう依頼されました。実際に訓練に携わったのは、お二人の後ろに控えていた、探検を志す北大山岳部の若者たちでした。稚内市から犬ゾリチームの養成に必要な訓練場所の提供を受け、暗中模索、悪戦苦闘の末、2月から雪が残っている5月までの僅かな期間に、ソリ犬の訓練と曳きソリの開発を成し遂げ、11月に出発した1次隊に託したのです。この犬ゾリチームは人跡未踏の地を約1,600km走破し、多くの地理的探検活動を支えました。



左から亀田貴雄・白石和行・及川欧の各講師

北海道では、日本最北端の街、稚内を舞台に犬ゾリ一式の開発を成し遂げた1956年が、南極観測元年との意識があり、自然に今年が60周年の年と捉えることになるのです。

稚内市民には、犬ゾリの開発やカラフト犬タロとジロが取り持つ縁で、南極観測への強い共感があります。南極観測60周年記念に当たって、稚内市は独自事業として、砕氷艦しらせの稚内誘致事業を目玉に、様々なイベントを稚内在住の南極OBの協力のもと、実施しつつあります。

ここでは札幌で7月に実施された南極観測60周年記念事業の概要を、掻い摘んでご報告致します。

<事業名> 南極観測60周年記念講演会・写真展・展示会(参加料無料)

主催 南極OB会北海道支部



後援 国立極地研究所  
協力 日本雪氷学会北海道支部  
協賛 NPO 法人雪氷ネットワーク  
＜開催日時＞ 2016 年 7 月 9 日（土）  
13:00～18:00

＜開催場所＞ 札幌市北区北 8 西 5 北海道大学学術交流会館（札幌駅北口から徒歩 5 分）

＜行事の内容＞

1) 講演会： 小講堂にて 16:00～18:00



講演会幕開け

司会：高橋修平

主催者挨拶：山田知充

講演タイトルと講演者：

「南極観測 60 年の歴史」

白石和行（国立極地研究所 所長）

「なるほど！昭和基地の越冬生活」

及川 欧（旭川医科大学病院 56 次越冬）

「南極ドームふじ基地 3035m

氷床コアから分かる地球環境の変遷」

亀田貴雄（北見工大、36 次、42 次越冬）

講演会には約 130 名の来場がありました。

2) 南極写真展：第 3 会議室にて  
13:00～18:00



写真展の様様

第 57 次南極観測夏隊同行者の塩原真氏（十勝毎日新聞社）撮影の南極の自然を様々な角度から切り撮った約 25 点（内訳 60 × 90cm=7 枚；30×45cm=18 枚）の迫力のある写真が展示されました。

国立極地研から供与された以下のパンフレットが会場で展示、配布されました。

■南極観測（100 部）

■南極もっと知り隊（100 部）

■北極観測（100 部）

■北極のひみつ（100 部）

■極（きわみ）（100 部）

■要覧（100 部）

3) 体験学習コーナー 第 4 会議室と廊下部分にて、13:00～16:00

次のようなブースが開設され、多くの親子連れが楽しんでいました。

なお、隕石と氷山氷、南極観測隊員の防寒



隕石展示 - 磁石がくっ付いた！



南極の氷はどこが違う？

服は極地研から貸与して頂きました。

- ・南極氷床上で見つかった隕石（石隕石と鉄隕石）にさわってみよう。
- ・南極氷山氷と日本の氷（かき氷用の透明な氷）を触って、違いを比べてみよう。
- ・ぱちぱち南極氷山氷　―太古の空気のはじける音を聞こう―



蜃気楼が見える！

- ・南極の蜃気楼を見よう　―水平線の向こうに氷山やペンギンが伸びて見える？
- ・針金が氷をすり抜ける？（複氷実験）
- ・六角ナットを使って雪結晶を作ろう。
- ・南極観測隊員の防寒服を着てみよう。
- ・ラジコン雪上車模型を運転してみよう。
- ・ペンギン着ぐるみ（大小）を着てみよう。
- ・二羽のおしゃべりペンギンに話しかけてみよう。
- ・折り紙でペンギンを作ろう。

#### 4) ビデオ上映　玄関ロビーにて 13:00~18:00

極地研から貸与された DVD ビデオ（「南極観測の新たな幕開け」と「遠くて近い北極」）がソファを配置したロビーの大型ディスプレイで公開され、多くの入場者が鑑賞して行きました。

#### 謝辞

日本雪氷学会北海道支部会員の大鐘 卓哉、渡邊 祥史、大宮 哲の各氏には途中から事業



玄関ロビーでのビデオ上映

委員会に参加頂いて準備を進め、学習コーナーへの出展を通して、大いに本イベントを盛り上げて頂きました。

南極 OB の望月 隆史・高見 英治・今泉 貴嗣の皆さんと雪氷学会会員で且つ南極 OB でもある櫻井俊光さんには、イベント当日、朝から会場に来て何かとお手伝い頂きました。展示も撤収も限られた時間内に終えなくてはならない状況にあって、大変助かりました。また、南極 OB の阿部幹雄さんには南極氷の展示用冷凍庫の貸与や広報活動への助言などのご協力を頂きました。事業費の一部は南極 OB 会本部から補助されました。

これらのご支援ご協力に、衷心より感謝の意を表します。

今回の事業は南極 OB 会北海道支部に 5 月中旬に組織された「南極観測 60 周年記念事業委員会」の下記の方々によって実施されました。

#### 北海道支部南極観測 60 周年記念事業委員

山田 知充 (12w, 39w)、横田 歩 (37w)、岸田 浩輝 (42w)、戸田 仁 (48w, 56w)、高橋 修平 (23w)、塩原 真 (57s)、小島 尚三 (14s)、杉山 慎 (49s, 53s)、佐藤之紀 (45w)、藤井 純一 (26w, 32w, 46w)、成田 英器 (13w, 24w)、新堀 邦夫 (37w, 46s, 47s, 48s, 52s)

(北海道支部長 山田知充)

## 南極 OB 会 第 58 次日本南極地域観測隊壮行会のご案内

1. 日 時： 2016 年 11 月 2 日（水） 受付 18:00 より
2. 場 所： レストラン「アラスカ」パレスサイド店  
千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F 電 話：03-3216-2797
3. 内 容： 講演、第 58 次南極観測隊壮行会
4. 会 費： ￥7,000 円（58 次隊員、同行者等、しらせ乗員は ￥2,000 円）  
申込方法等の詳細は、同封案内状をご覧ください。



## 連載「帰国後の各隊の動き」

### 第 28 次南極地域観測隊 板橋集合 30 周年記念講演会と同窓会

28次隊が板橋にあった極地研究所に集合してから 30 周年を記念して 2016 年 6 月 11 日、船橋港に係留中の「SHIRASE しらせ 5002」艦内で隊員のお子さんや奥さんも交え 35 名参加して講演会と同窓会を開催した。

講演前に鮎川さんからは観測隊長星合さんの近況を、大山さん他早めに帰る方々から、近況報告をして頂いた。

14 時から荻原の司会進行で、持田講師「植物群落の多様性とその立地南極露岩域のコケ群落から熱帯雨林まで」、石沢講師「内陸基地での 3 つの課題、①輸送、②エネルギー、③スノードリフト」、山内講師「北極気候変動研究の歩み」と題し、多くの質問が出る活発な講演会となった。

講演会終了後、8m/s を超える強い風の中「しらせ」を背景に記念撮影をし、サッポロビール園へと移動した。16 時から塗装が新しく美しい「しらせ」を横に見ながら、フリマントルを思いつつ懇親会を行った。

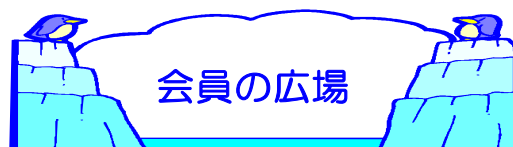
二次会は「しらせ隊員公室」に移動し、向井進行で、第 58 次隊小山内隊長から第 58 次南極観測計画を聞き、酒井量基さん保



SHIRASE しらせ 5002 を背景に(35 名参加)

管の 28 次アルバムに寄せ書きを行い、「しらせ」に寄贈した。その後は隊員持参の銘酒(日本酒、焼酎、泡盛、ワイン)を堪能し、深夜まで懇親を深めた。翌朝は船員食堂で磯さんによる味噌汁や漬物他朝食を作って貰い、昭和基地での「磯平食堂」を思い出した。早々に帰宅する人を駅まで送り届け、寝具の片付けや簡単な清掃を行い、本年 11 月に出発する第 58 次小山内隊長の壮行会開催を楽しみに解散した。

(第 28 次昭和 荻原裕之、向井裕之)



訃報 ご遺族や会員の方からお知らせ頂きました。謹んでお悔やみ申し上げます。

(敬称略)

| お名前     | 隊次  | 部門   | 逝去月   | 享年 | お名前   | 隊次       | 部門 | 逝去月   | 享年 |
|---------|-----|------|-------|----|-------|----------|----|-------|----|
| 赤 平 光 彦 | 18s | 設営一般 | H27.9 | 72 | 土井全二郎 | 20s(obs) | 報道 | H28.5 | 80 |
| 石 田 幸 夫 | 22w | 調理   | H28.9 | 70 |       |          |    |       |    |



南極 OB 会オリジナルカレンダー 2017年版 発売間近！

来年用のオリジナルカレンダーの原稿が完成し、印刷と予約案内の準備が進んでいる。

初出の2015年版はB5サイズのスケッチ集、昨年版はサイズをA4にして「ふじ」の時代の写真を取上げた。OB会会員にとっては貴重な写真を味わい、また解説する楽しみもある「とっておきたい」カレンダーとなった。



来年版では機械遺産 **KD60** シリーズの現役時代から、新「しらせ」までバラエティーのある構成となっている。ねこの「たけし」が登場するという噂もあったが、制作担当者からは確認が取れなかった。



表紙：機械遺産の KD604、KD606

裏表紙：しらせを観察中のアデリー

このオリジナルカレンダーの特徴は、撮影者による200字程度の解説が付いていることだ。制作グループでは

5年毎ぐらいにテーマを絞った写真集として提供したいと考えている。

申し込み方法等の詳細は、同封した「案内」を参照してください。

新企画 南極すごろく

南極観測隊員を体験  
できる「南極すごろく」  
を南極観測再開 50 周  
年・南極観測 60 周年記  
念事業の一環として作  
成、販売します。

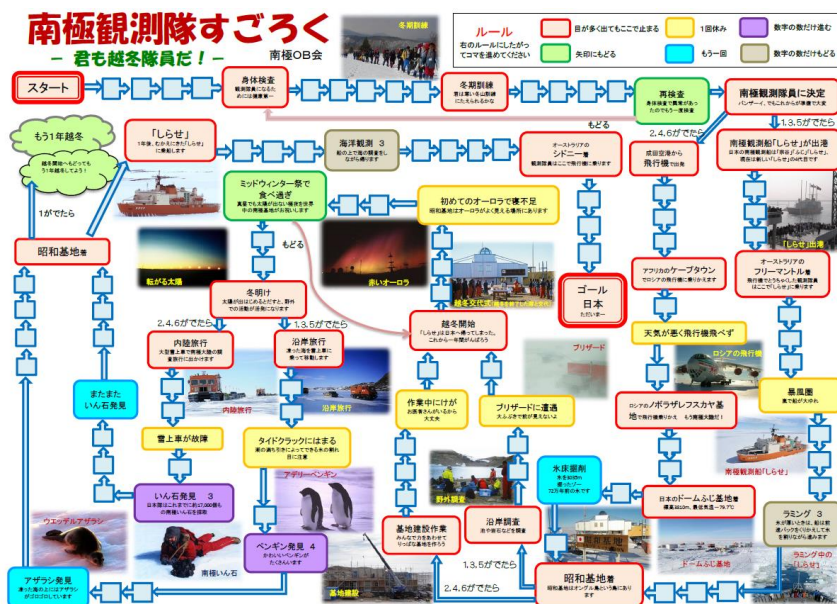
本すごろくは、南極観測隊員になるために必要な隊員候補者の身体検査や冬山訓練を経て、晴れて隊員に決定するところから、南極観測船「しらせ」の出港から昭和基地までの道のり、夏の観測や設営作業、越冬生活に入りオーロラ観察、ミッドウィンター、冬明けの観測、「しらせ」

のお迎え、帰国といった一連の南極観測隊員の活動を、家族、仲間と楽しみながら体験できます。

南極 OB の方も昔を思い出しながら楽しんでみてはいかがでしょうか。

試作品は、船橋に係留されている初代「しらせ」で行われている「チャレンジング SHIRASE」のイベントで子供さんに試してもらったところ、親御さんから家でも遊びたいとの声が多数あり、今回の販売に至りました。

駒（コマ）となる観測船や雪上車、サイコロのミニペーパークラフトも付属しています。  
 大きさ：B2 サイズ（縦 51.5cm×横 72.7cm）価格：400 円（税込）販売時期：2016 年 11 月



「南極すごろく」の見本

南極 OB の方も昔を思い出しながら楽しんでみてはいかがでしょうか。  
試作品は、船橋に係留されている初代「しらせ」で行われている「チャレンジング SHIRASE」のイベントで子供さんに試してもらったところ、親御さんから家でも遊びたいとの声が多数あり、今回の販売に至りました。

駒（コマ）となる観測船や雪上車、サイコロのミニペーパークラフトも付属しています。  
 大きさ：B2 サイズ（縦 51.5cm×横 72.7cm）価格：400 円（税込）販売時期：2016 年 11 月

## 南極観測 60 周年記念事業計画について（予報）

今年の 2016 年は第 1 次南極地域観測隊が 1956 年 11 月 8 日に晴海港を出発してから 60 年間、そして来年の 2017 年は 1957 年 1 月 29 日、西オングル島に日章旗を立てた日から 60 年を経過したという記念すべき年です。南極 OB 会の本年度の総会（本誌本号参考）で 南極観測 60 周年記念事業計画が提案され承認されました。公開記念講演会、展示会、祝賀会の他に、出版事業、地方支部との連携プログラム、アーカイブ事業、記念品事業などが計画されています。

以下に、メインとなる計画の概要を示しますので、万障お繰り合わせのうえ、多くの方々の参加をお願いいたします。（企画を調整中、詳細は後日、ご案内いたします。）

### 公開記念講演会

日時：2017 年 1 月 22 日（日）13:00～17:00

会場：一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター 2 階）

第 1 部「日本南極観測を立ち上げた人々、支えた人々」（仮称）

第 2 部「日本南極観測と国際交流」（仮称）第 3 部「南極観測の将来像」（仮称）

展示会 11:00～20:00 祝賀会 18:00～20:00

（渡邊興亜）

### 支部担当運営委員よりご挨拶

このたび、南極 OB 会支部担当を拝命した運営委員の山岸です。昨年 3 月に国立極地研究所を定年退職した機会に、長年お世話になった南極 OB の皆様のお役に立てればと、南極 OB 会の運営委員に加えていただきました。そこで頼まれた役割が支部の担当窓口でした。この仕事は南極観測 50 周年に向け、南極 OB 会が発足して以来、渡辺興亜運営委員（企画委員長）が務められてきました。私はまだ、支部活動の事情に疎く、行き届かないことが多々あると思いますが、支部活動振興のお手伝いをさせていただきますので、よろしくお付き合いくださいますよう、お願いいたします。



南極 OB 会活動は、観測隊次毎のつながりを横糸とすると、支部活動は縦糸になります。隊次毎の集まりは従来からよく行われており、昔の仲間が一堂に会すれば、たちまち昔の時間が戻り、飲食を楽しみ親睦が深められることになります。一方、縦糸の方は、何か求心力となる行事などを企画しないと、人を結集することが難しく、支部長さん、幹事長さんはご苦心されていることと思います。しかし、その企画がうまく完遂された時の達成感、満足感はひとしおであろうと想像します。

南極 OB 会は、会員数 2,000 名を超える全国組織です。南極 OB 会の、この全国組織であるとのユニークさは、ひとえに支部活動の積み重ねが支えているものと思います。東京圏では南極関係の講演、行事は頻繁にあり、特段の注目は集めにくいですが、東京圏以外では、南極関係の行事は珍しく、南極 OB 会支部が催す企画は注目度が高いと思います。来年は南極観測 60 周年です。東京では 1 月 22 日に記念講演会、祝賀会が行われますが、各支部でも、この機会に独自の行事を企画され、支部活動を活性化する契機にいただければ、と願っております。幸い、南極観測 60 周年記念事業のための募金は順調に進み、支部の独自企画への財政支援が可能になっております。既に北海道支部では 7 月に記念講演会・写真展・展示会が行われ、9 月には山陽支部、11 月には東海支部、北陸支部で記念行事が予定されています。宮城支部、九州支部でも記念行事が計画されているとのことです。何か計画をお考えの支部は、支部担当：山岸まで（hyamagisi2000@yahoo.co.jp）ご一報ください。できるだけのご協力と支援をさせていただきます。（山岸久雄）

\*\*\*\*\*

南極 OB 会事務局 〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-3-2 牧ビル 301

電話：03-5210-2252 FAX：03-5275-1635

メール：nankyoku-ob@mbp.nifty.com

郵便振込：加入者名 南極 OB 会 00110-1-428672

南極 OB 会ホームページ：http://www.jare.org /

\*\*\*\*\*